

海外派遣報告書

筑波大学医学専門学群医学類 6 年 松村英明

派遣先：

Charité - Universitätsmedizin Berlin Campus Virchow-Klinikum, 2010/4/26~5/21

派遣先 Charité - Universitätsmedizin Berlin について

この病院はドイツの首都ベルリンに所在し、4つのキャンパスに14500人のスタッフを抱え、一年間の外来患者数は50万人というEUの中でも一番大きな病院である。2010年で創立300周年というかなり歴史のある大学病院で数多くのノーベル賞受賞者を輩出している。私はその中のCampus Virchow-KlinikumにあるKlinik für Neurochirurgieを4週間訪れた。

Klinik für Neurochirurgie について

脳神経外科はいずれも専用の4部屋の手術室とICU、病棟を持ち、42歳という若い教授を筆頭に約35名の医師（その内女性医師が6名）が働いていた。もやもや病などの脳血管障害や脳腫瘍、脊椎外科からパーキンソン病などの機能脳神経外科、末梢神経手術、ペインコントロールまで幅広く手術を行っており、脳梗塞は神経内科が、脳動脈のコイル塞栓術は放射線科が担当するのが日本と異なっている。手術は4部屋ともmicrosurgery用の顕微鏡が、その内2部屋はX線透視装置がおかれてもまだ十分余裕がある大きさの広さで、一日10~15件の手術がおこなわれていた。

日本との違い

日本と違う点は、いくつかあるが一つ目は各診療科ごとに単独の病院を持ちそれらがすべて地下でつながっているということだ。救急部、CT室など各科で共同で使う部門が地下に配置されていた。手術室、ICUも各科ごとに分かれているので、コメディカルが各科の疾患を熟知しており、スムーズな医療が行われていた印象がある。ドイツではドクターヘリ網が充実しており、各地にこのような大規模で専門的なセンター病院が配置され集約化がすすんでいる。

また、二つ目の違いとしては、公的健康保険と私的健康保険があるという点である。私的保険に入っている患者は広い病室に入院し、教授自身が回診、手術を行っていた。この私的保険の患者数はそのまま病院の収入、および評価に直結しており、重要視されていた。

三つ目としては、ドイツでは人口の10%程が海外からの移住者であることもあり、海外出身の医師、学生が多いということだ。これは基本的には医学教育を無償で受けることができる点も影響しているだろう。実際私が滞在していた時にいた学生3人の内1人はインド、もう1人は南アフリカ出身であった。ドイツの医学教育は高校卒業後から始まる6年制であるが、兵役(または奉仕活動)や学位論文のための研究などで同じ6年生でも年齢は日本よ

り若干高めであった。

一日の病棟の流れ

| 一日の流れ | |
|-------------|------------------------|
| 7:00~ | 各チームごとの回診 |
| 7:30~8:10 | 当直からの申し送り、当日の手術予定、連絡事項 |
| 8:10~8:40 | ICU ラウンド |
| | ~チームごとの病棟業務や手術~ |
| 15:00~15:45 | 月水金：レントゲンカンファ |
| | 火木：手術の振り返り、翌日の手術予定など |
| 16:15~16:45 | ICU ラウンド |

病棟業務はいくつかのチームに別れて行われており、ICU 専門チーム、私的保険患者専門チームなどがあった。全体的な印象としては、チーム制、シフト制で動いていることが多く、18時~19時になると担当チーム以外は帰宅したり、研究室に向かっていた。

手術内容としては、毎日4つの手術室で多彩な手術が行われていた。Vajkoczy 教授は脳血管障害が専門で多くの手術を行っていたが、特に Moyamoya 病の4歳児に対する浅側頭動脈-中大脳動脈バイパス手術には手洗いをして第一助手という形で手術に参加した。また、上述したように、各科ごとに専門のコメディカルがおり、手術室の器械だしの看護師も手術に熟達しており、執刀医一人+器械だしの看護師+外回りの看護師の三人で手術を進めていることがしばしばあった。

また、病棟でもコメディカルの役割は大きく、診療情報提供所や退院サマリーなどの書類は、医師がレコーダーに吹き込んだものを、4人いる秘書が文章におこしていた。全体的に効率よく医療を行う工夫がなされているように感じた。

最後に

今回の派遣にあたり、多くの方々からのご支援ご協力をいただいた。この場を借りてお礼を述べたい。



正面玄関



病院の中央をつらぬく通り



学生の教室



Moyamoya 病の手術風景。手前が筆者。



42 歳という若さの Peter Vajkoczy 教授と